

変わる学校現場

高等学校の入学者選抜の変化



はじめに

急速な社会の変化の中で、当たり前と思っていたものがなくなる、気付いたら変わっていた、なんてことはないでしょうか。子どもたちが通う学校について、さまざまなものが変化しています。高等学校の入学者選抜、いわゆる「高校入試」の方法も少しずつ形を変えています。“新しい時代のスタンダード”ということで、今回は、近年の新潟県における高校入試の変化についてお知らせします。



昨年度実施の令和8年度入学者選抜から変わった内容

今年の高校1年生の受検した、令和8年度入学者選抜から、中学校が高等学校に提出する調査書の様式が大きく変わりました。今まで記載していた「各教科の学習の記録（観点別評価）」、「行動の記録」、「出欠の記録」、「特別活動の記録」などの項目が削除され、「各教科の学習の記録（評定）」のみを記載する形に変更されました。「新潟県 調査書」などとWEB検索すると新旧調査書の形式を実際に見ることもできます（右下の二次元コードから見るともできます）。合否判定に真に必要な事項のみに精選し、透明性・客観性を高めることが変更の目的です。

「令和8年度新潟県公立高等学校入学者選抜における「調査書」の様式について」はこちら▶



今年度実施の令和9年度入学者選抜（主に今年の中学3年生が受検）から変わる内容

◆「学校設定枠」の新設

平成27年度（2015年度）入学者選抜から実施されてきた特色化選抜（スポーツ活動、文化活動、科学分野の活動など、学校ごとの特色に合わせた選抜）が廃止され、一般選抜に「一般枠」と「学校設定枠」の2つの募集枠が設けられます。一般枠は、すべての学校・学科が設定し、すべての志願者が出願する募集枠であり、これまでの一般選抜に近いイメージです。また、学校設定枠は、各学校・学科のアドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）を踏まえ、学校が設定する募集枠で、すべての高等学校で実施されるわけではありません。希望する志願者が、一般枠に加えて同一校の学校・学科に出願できます。学校設定枠の募集人数は、学校・学科ごとに高等学校が定め、中学校長の推薦は必要なく、「調査書」「学力検査」「その他の検査等（書類・面接・実技等）」の総合得点により選抜されます。



◆「入学者選抜のスケジュール」の変更

例年、県立高等学校の一般選抜は、3月上旬に実施されていましたが、令和9年度入学者選抜からは、本検査実施日を「2月25日を目安とする」と発表されており、令和9年度入学者選抜の本検査1日目は令和9年2月25日（木）に実施されます。高校進学希望者の進路決定時期を早め、一定の入学準備期間を確保することなどが主な変更理由です。また、欠員補充のための2次募集は令和9月3月15日（月）、合格発表が翌16日（火）になります。



おわりに

少子高齢化、高度情報化などの社会の変化に加え、感染症の流行もあったことで、高校入試に限らず、子どもたちの教育環境は、ここ数年で大きく形を変えてきています。これからの予測困難な未来の時代を支えていく子どもたちのために、あらゆるものを、今までの常識にとらわれずに、よりよい形にアップデートしていくことが求められています。とは言い、「古き良き時代」「温故知新」…。バランス感覚というものも大事にしたいものですね。



★新潟県の生涯学習の情報なら

ラ・ラ・ネット

検索

お問い合わせ：新潟県立生涯学習推進センター TEL 025-284-6110

